

進捗状況の概要（1ページ以内）

(1) 学内の実施体制

平成28年度に導入した8タームの学事暦とギャップイヤーが完成し、2年間の教育課程での成果と課題が明らかになり、それに伴い大学改革委員会を中心にカリキュラムや3ポリシーの見直しを行うことができた。Awesome Sasebo! Project 推進室を学内の国際交流・地域連携委員会の下に設置し、月1回の会議で各学科の学外学修活動状況を報告・情報共有することで、地域活動等の推進を行っている。各学科が実施した活動内容は、毎回報告書を提出し、ホームページにも掲載し広く学内外に広報を行っている。

(2) 中心となる取組

国際コミュニケーション学科においては、平成29年度のギャップイヤーの期間に、3ヶ月留学に12名（カナダ3、中国1、韓国8）、国内有給インターンシップに26名、サービスマーケティングに7名が参加した。保育学科、食物科においては、各学科で実施する学外実習に加え、多くの地域活動やボランティア活動など学外学修プログラムに参加した。

同時に、学外学修に関する全学科共通の科目として「社会人基礎入門 A（地域と大学・ASP）」を開設し、全学的に学外学修活動の理解と推進を図っている。

また、本学が取り組む地域活動の理解を深めるための研修や、本事業採択時からの課題であるルーブリックの作成と活用について学内FD/SDを2回開催し、教職員の資質を着実に高めることができた。他機関主催のFD/SDにも5回参加し、着実に能力向上につなげることができた。

(3) 取組の成果

ギャップイヤー活動、学外学修プログラムが充実するに従い、学生のキャリアや進路に対する意識が高くなっており、その結果として、早期の就職活動への取り組みと内定獲得、国内外の3年次編入、海外への長期留学などが見られた。

同時に、国際コミュニケーション学科の学びの中心である語学教育においても、学外で外国人（英、中、韓）と接する機会が増え、語学への興味関心や語学学修へのモチベーションが高まり、ギャップイヤー終了後において、全体的な学修意欲が高まり、定期的実施しているCASEC英語テストのスコアが上昇し、各言語の検定合格率も高くなった。

(4) 補助期間終了後の継続発展に向けた取組

補助期間終了後も継続的に遂行できるよう、資金面においては平成30年度に1/3、平成31年度には1/2、本学の自己負担で事業を推進する体制を構築している。

(5) 学内外への波及効果

学外学修関連学会（日本インターンシップ学会第18回大会・日本インターンシップ学会九州支部第19回研究会・AP事業テーマIV採択校シンポジウム・第38回短期大学の将来構想に関する研修会・AP事業全テーマ合同報告会）で、インターンシップの取組内容や教育成果を発表し、本学の取組を学外に波及することができた。また2月に地域市民をはじめとしたステークホルダーを招き、学内で成果報告会を実施し、4件のステージ発表と15件のポスター発表を行った。学生218名が参加し、学科をこえた教育活動の情報共有がはかられ、各事業の発展へとつながっている。

またSNSやパンフレット等を利用し、本取組の有効性を学内はもとより、学外のステークホルダー（地域社会、高校、大学、企業など）へ積極的に発信を行っている。他大学・短期大学からも本学取組への視察等の依頼もあり、今後も情報発信を積極的に行う。

平成30年度には、福岡女子大学と宇部高専との、合同シンポジウムを学生主体で計画している。今後も他大学とのコラボレーションを行い、学生同士の交流や他大学との情報交換を通して学外への波及を行う。